

# 令和4年度障害者スポーツ推進プロジェクト

(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

## 事業報告

岩手県

# 1 障がい者スポーツの実施状況と課題

## (1) 実施状況

岩手県では、令和1年～令和3年の期間、障がいのある人もない人も共にスポーツを楽しむ機会の充実を図ることを目的に、障がいのある人もない人も対象とした「卓球バレー交流大会開催事業」を実施し、交流大会開催地域を増やしながらか参加者数を拡充。

岩手県委託事業「卓球バレー交流大会開催事業(R1～R3)」

委託先：一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会

R1 (1地域開催)	R2 (2地域開催)	R3 (3地域開催)
県央開催：196名参加	県央開催：129名参加	県央開催：152名参加
	沿岸開催：113名参加	沿岸開催：86名参加
		県北開催：125名参加

## (2) 課題

卓球バレー交流大会の開催地域と参加者を拡充することはできたが、体験教室や練習会に関する取り組みは行わなかったため、地域で主体的に行う体制が構築されず、**地域での継続的な取組として定着していない。**

## 2 取組 (1) 障がい者スポーツの課題解決に向けた目標

- ① 持続性のある体験教室や練習会を身近な地域で行うことにより、インクルーシブスポーツに取り組む機会を創出し、参加した障がいのある人のスポーツ実施への関心を高める。
- ② 交流大会を目指した練習に取り組むことで、参加者のモチベーションの向上につなげ、大会後も「またやろう」「もっとやりたい」「次はこれをやりたい」という機運を醸成する。
- ③ 地域の担い手となる総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ推進委員、福祉事業所等を中心としたネットワークを拡大し、地域主体による練習会、大会等を開催しながら、地域で主体的・継続的な推進体制づくりにつなげる。



課題解決、目標達成に向けて

### 『インクルーシブスポーツ推進事業 (R4～)』

障がいのある人もない人も一緒に取り組むことができるボッチャと卓球バレーをとおして、①地域推進体制の構築、②指導員の養成、③体験教室・練習会、④交流大会を県内各地で進めることにより、障がいの有無や年齢、性別を問わず、地域でスポーツ活動に親しみ、インクルーシブスポーツを継続して楽しむことができる機会の充実を図る。

R4年度：県央、沿岸の2地域で開催

R5年度：県央、沿岸、県北の3地域で開催

R6年度：県央、沿岸、県北、県南の4地域で開催

## 2 取組 (2) 具体的な事業の実施内容

### ① 地域推進体制の構築

#### (地域実行委員会の開催)

各地域でインクルーシブスポーツの担い手となる関係団体による推進体制を構築(地域実行委員会)。持続的な取組に向け、地域におけるインクルーシブスポーツの普及に向けた課題検討、参加者の拡充、指導員養成、体験教室・練習会、交流大会等を推進。

### ② 指導員養成

#### (ボッチャ、卓球バレー)

指導員講習会を開催し、ボッチャと卓球バレーの活動の中心となる指導員を養成し、地域のスポーツ振興のキーパーソンを確立。

### ③ 体験教室・練習会開催

#### (ボッチャ、卓球バレー)

各地域において、障がいのある人もない人も参加対象とした、ボッチャと卓球バレーの体験教室・練習会を持続的に開催。

### ④ ボッチャ・卓球バレー交流大会開催

各地域において、障がいのある人もない人も参加対象とした、ボッチャ交流大会と卓球バレー交流大会を開催。



## 2 取組 (3) 令和4年度の実績

競技	開催地域	実行委員会	指導者養成講習会	体験教室	練習会	交流大会
ポッチャ	盛岡市	岩手県勤労身体障がい者体育館 委員 9 名 事務局 2 名	岩手県勤労身体障がい者体育館 参加 8 名 事務局 2 名	見前南地区公民館 参加 15 名 事務局 2 名	各地域において 適宜開催	岩手県勤労身体障がい者体育館 選手 48 名 (内障がい有 22 名) 事務局 10 名
	大船渡市	大船渡市民体育館 委員 10 名 事務局 2 名	岩手県勤労身体障がい者体育館 参加 2 名 事務局 2 名	福祉の里センター、 大船渡市民センター 3 回実施 参加 60 名 指導者 6 名	各地域において 適宜開催	大船渡市民体育館 選手 83 名 (内障がい有 41 名) 事務局 15 名
卓球 バレー	盛岡市	ふれあいランド岩手 委員 7 名 事務局 2 名	ふれあいランド岩手 参加 16 名 事務局 2 名	ふれあいランド岩手 参加 20 名 事務局 2 名	各地域において 適宜開催	ふれあいランド岩手 選手 124 名 (内障がい有 63 名) 事務局 18 名
	久慈市	久慈市情報交流センター 委員 7 名 事務局 1 名	久慈市民体育館 参加 15 名 事務局 1 名	久慈市民体育館 参加 12 名 事務局 4 名	各地域において 適宜開催	久慈市民体育館 選手 62 名 (内障がい有 19 名) 役員 37 名

# 3 成果と課題

## ① 成果

- ※ 今年度から実施したボッチャ交流大会では、支援者や家族が障がい当事者と一緒にチームで出場
  - 「またやろう」「もっとやりたい」という機運醸成
- ・ 岩手県障がい者スポーツ協会を中心とした地域のネットワークが構築
  - 実行委員会への市福祉担当課の参加、交流大会への市長や教育長の出席（久慈市）
- ・ 参加者の多様性に配慮した事業内容（参加形態）
  - 事業所の余暇活動として参加できるハードルの低さ（だれでも参加できる）

前事業で課題だった、「地域で主体的に行う体制の構築」に向けて、市町村との連携が強化された好事例！

## ② 課題

- ・ 地域の小中学校、高等学校、特別支援学校からの参加が少ない
  - 各学校へ直接事業を案内する等周知を強化（特別支援学校との連携強化）
- ・ 交流大会の円滑な運営にはさらなる指導者（審判）の養成が必要
  - 学校教員をターゲットに指導者養成講習会の周知を強化（特別支援学校との連携強化）
- ・ スポーツ未実施者へのアプローチができていたか
  - 関係団体（市町村の障がい者団体、民生委員等）と連携し地域の障がい当事者の状況把握

【所感】共生社会づくりは時間がかかる（最初の一步に過ぎない・・・）

## 4 今後の方向性

- ・ 開催地域の拡充（R4年度：県央、沿岸の2地域で開催）

- R5年度：県央、沿岸、県北の3地域で開催

- R6年度：県央、沿岸、県北、県南の4地域で開催

- ・ インクルーシブスポーツの活動情報を発信し、一般への理解と活動機運を醸成

- 岩手県障がい者スポーツ協会、地域まちづくり組織、市町村等との連携による広報

- ・ 地域実行委員会のネットワークや市町村等と連携した参加者の拡充

- 地域の障がい者団体、民生委員等と連携し、スポーツ未実施者へアプローチ

- 体験会・練習会、交流大会開催の周知強化（地域の各団体と連携）

- 各学校への事業周知と連携強化（指導者養成講習会への参加者拡充）

地域実行委員会を通じて、市町村、地域の障がい者団体、特別支援学校と、情報共有や連携ができる関係を構築していく。

- ・ 地域における自主的な活動、地域独自のインクルーシブ活動を展開

- 地域実行委員会を中心とした体験教室、練習会、交流大会の開催

- 商業施設等を活用した体験教室等（地域まちづくり組織、市町村等と連携）

【担当】岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課

競技スポーツ担当（三本柳駐在） 菊池大輔

【TEL】019-637-5055 【FAX】019-637-7626

一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会兼用

【E-Mail】ptf20-kikuchi-daisuke@pref.iwate.jp